

令和7年10月8日

学生の皆さんへ

吉備国際大学

学長 中瀬 克己

生成系 AI（ChatGPT 等）の利用について【2025 年度版】

近年、生成系 AI（Generative AI）の技術は急速に発展し、ChatGPT をはじめとする多様なサービスが学習支援や研究補助など幅広い分野で利用されています。

生成系 AI は、適切に活用すれば学びを深め、創造的な活動を支援する有益なツールとなりますが、一方で誤情報の生成や著作権侵害、個人情報漏えいなどのリスクも伴います。

本学では、以下の留意事項を踏まえて、生成系 AI を学修・研究活動において適切に活用することを推奨します。なお、文部科学省や関係機関が示す最新のガイドライン等に応じて、内容を適宜更新します。

① 活用の心構え

- 本学は「自ら学び、考え、表現する力」の育成を重視します。生成 AI はあくまで補助的な参考ツールとして利用してください。
- 出力結果を鵜呑みにせず、自分の判断で取捨選択し、学びの質を高めるように活用しましょう。
- 生成 AI を使用して出力する情報の質は、AI に働きかける人間の知識や考えの広さ・深さ、表現する力で大きく変わります。AI をよりよく利用するためにも、自らの力を伸ばすことに努めましょう。
- 課題・レポート・卒業論文等の作成に生成 AI を使用した場合には、AI を使用して作成したことを明記したうえで、どのように利用をしたか、また、生成 AI に対してどのようなプロンプトを与えたかも併せて明記することが推奨されます。
- 授業や課題での利用可否や条件は担当教員の指示に従ってください。

② 情報の信頼性・正確性の確認

- 生成 AI の回答には、事実誤認や古い情報、矛盾が含まれることがあります。存在しない・誤った情報を出力することは「AI ハルシネーション」と呼ばれよく知られた現象です。
- 学術的根拠が必要な場合は、必ず信頼できる文献・一次情報で検証してください。
- とくに、論文の参考文献・引用文献に誤りが含まれることがよく知られています。生成 AI が出力した文献は本当に存在するか確認しましょう。

- 信頼できる情報源を使用して回答するように指定することで、情報の信頼性・正確性をあげることが知られています。AI に問いかけ自分自身が情報の真正性を確認する際に役立つよう、日常からどのような情報源が信用できるか確認しましょう。
-

③ 個人情報・機密情報の取り扱い

- 生成 AI サービスの利用は、端末の設定や AI サービスの設定によっては情報漏洩が起きます。実名、住所、学籍番号、メールアドレス、成績、研究データなどの個人情報や機密情報の入力、適切な設定をした場合以外は、絶対に行わないでください。
 - 利用するサービスによっては、入力内容が学習され、その結果が第三者に利用されることで情報漏洩が生じます。必ず利用規約とプライバシーポリシーを確認してください。
 - ChatGPT など一部サービスでは、入力情報を AI 学習から除外する設定や申請（オプトアウト）が可能です。情報漏洩を防ぎながら利用するため、必要に応じて設定してください。
-

④ 法的配慮

- 生成 AI が作成した文章や画像などをそのまま提出した場合（または一部だけ言い回しを変えて提出する場合など）、AI が学習したデータに類似・同一の情報が含まれる場合は著作権侵害に問われる可能性があります。
 - 特定の作者の画像などを集中的に学習させたうえで、それと同一・類似の情報を出力することは、著作権侵害に問われる可能性がきわめて高いと考えられています。
 - 誹謗中傷、差別的表現、プライバシー侵害、公序良俗に反する内容など、不適切な生成物の公表は、法律や条例などによって罰せられる可能性があります。
-

※ AI の技術・産業や AI をめぐる法制度・経済は急速に変化をしています。上記の基本原則やガイドラインは、そのときどきの状況を見て適宜見直しを行います。

学生ガイド：生成 AI（ChatGPT など）のよりよい使い方【2025 年版】

ChatGPT などの生成 AI は、うまく使えば勉強や調べ物にとっても役立ちます。

ただし、使い方を間違えると成績や信用に関わる問題になることもあります。

このガイドを参考に、安全・正しく・かしこく使ってください。

1. 課題やレポートに使うとき

- 課題やレポートは、自分自身の知識や考える力、表現をする力などを引き出し引き延ばすためのチャンスです。AI は頼るものではなく活用するものと肝に銘じましょう。
 - AI はサーチエンジン代わりに情報収集に使用したり（情報源・出典を示すよう AI には指示しましょう）、どのような話題（論点）があるか聞いたり、テーマに関する考え方や話題（論点）を明らかにしたり、文章校正をさせたり、翻訳やプログラミングのたたき台作りに使用しましょう。最後は必ず見直しをして修正が必要なところは修正しましょう。
 - 課題・レポート・卒業論文等の作成に生成 AI を使用した場合には、AI を使用して作成したことを明記したうえで、どのように利用をしたか、また、生成 AI に対してどのようなプロンプトを与えたかも併せて明記することが推奨されます。
 - 授業によっては「AI 使用禁止」や「使って OK」など条件が違います。先生の指示を必ず確認しましょう。
-

2. 情報は必ず確かめる

- AI の答えは**間違っていることがある**（専門用語で「ハルシネーション」と呼びます）。
- AI に問かけるとき、信頼できる情報源を使用するように一言付け加えると、学術的根拠を得ることがより容易になります。
- レポートや発表に使うときは、授業の教科書や信頼できるサイトで裏付けをとりましょう。
- 信頼できるサイトとは？
 - 政府・国際機関のウェブサイトの情報は相当信頼性が高いです。
 - 専門学会の解説記事は信頼性が高く理解もしやすいことが多いです。
 - マスメディアのように、誰が情報を発信しているか正しく表示されているウェブサイトも信頼ができることが多いです。
 - ただし、どのような情報源であっても、ミスや知識の進歩などによって、誤りが紛れ込むことは防ぎきれません。複数の情報源を見比べ、高校までに習った理科や社会などの知識との整合性や、データの新鮮さなどを確認しましょう。

3. 個人情報・機密情報は入力しない

- 名前、住所、学籍番号、成績、研究内容などは、適切な設定をしない限り入力しないこと。情報漏洩の危険があります。
- サービスによっては、入力内容が学習に利用される場合があります（そのまま保存される場合もあります）。利用規約を確認しましょう。これも情報漏洩の原因になります。
- ChatGPT などでは、自らが入力した内容を AI の学習用データとして提供しないよう設定することで、情報漏洩のリスクを下げるすることができます。ChatGPT では、次のように設定をします。
 - トップ画面で、左下のアカウント名をクリックして開くタブで「設定」を選択（図 1）。



図 1 ChatGPT で「設定」画面を開く。

- 開いたタブで「データコントロール」をクリック。さらに開いたタブで、「すべての人のためにモデルを改善する」を「オフ」に（図 2）。これで入力データは学習に使われません。



図 2 設定で入力を学習から除外する。これで入力した情報は記録されません。

4. 法律上の配慮を忘れずに

- AI が作成した文章や画像などをそのまま提出した場合（または一部だけ言い回しを変えて提出する場合など）、AI が学習したデータに類似・同一の情報が含まれる場合は著作権侵害に問われる可能性があります。
- 特定の作者の画像などを集中的に学習させたうえで、それと同一・類似の情報を出力する行為は、著作権侵害に問われる可能性がきわめて高いと考えられています。
- 誹謗中傷、差別的表現、プライバシー侵害、公序良俗に反する内容など、不適切な生成物の公表は、法律や条例などによって罰せられる可能性があります。

5. AI と上手につきあうコツ

- AI は「答えをくれる先生」ではなく、「アイデアをくれる相棒」。
- 出てきた答えをそのまま信じず、自分で考えて取捨選択する。
- 自分の学びを深めるための**きっかけ作り**として活用しよう。

まとめ

- 授業や課題、レポート試験等における AI の利用の可否や使い方は先生の指導に従うこと。
- AI を使用したか、使用した場合どのように使用したか（プロンプトを含む）は必ず明記する。
- 出力結果が正しいか「裏取り」を忘れずに。
- 個人情報・機密情報は入力しない。
- 使用の仕方によっては法律・条例に違反し、法的問題を起こす可能性もあります。
- AI は自分の考える力・表現する力などを伸ばすために使う